

凡例 i

第六帖

乙女 5

玉鬘 57

初子 101

第七帖

胡蝶 137

蛭 161

常夏 201

かゝり火 232

野分 238

第八帖

御幸 263

藤袴 301

真木柱 328

梅かえ 379

第九帖

藤裏葉 421

若菜上 456

第十帖

若菜下 561

柏木 653

横笛 685

※ 卷名は、注開始箇所の表記を基本としたが、卷名表記がない巻や通行と異なる巻名表記の場合、題簽の巻名表記を付した。

中平日

けきやいり 病みききとい除服日後のいはい野院り
と波打て除服の口襖はかんとお付さしといす除服
の事といくと去年まで家のことばかりと今年引
入る換りもさういふは多しといふこと食事もいふとけり
とあそつ原といひ日方除服といふは原のやま園といふ
といふ付まつけくさつさ

いさ死の身 病またりわり
おりぬれ 太さば除服のいれといいつくは活ききは
表り半もな色い血起りて事

あらむ 病みやはせとい昨日といひいさる一守成て除服
病をさつらるを言今うすわといふらあはね種とも

病まらり病おまをさつらると病病をさつらると野除服と
名といれとい去年月程とらうといふの別をさつらり
てを元のけりよ成るもさういふやまといふ由て野院とい
ゆいさういふ又言はるは病は病をさつらると野のを
いふ

九服をけりのはは口襖のは又除服といふや

病まらり 病れといふ野院

院は 野院

病まらり 病まらりといふ

いささつあつ 病まらりといふ

いささつあつ 病まらりといふ

いささつあつ 病まらりといふ